

第3回臨時会

8月6日「財産の無償貸付け」を含む2議案が提案され、すべて可決しました。

財産の無償貸付け

●提案理由

寄附を受けた財産を活用し、休業中のガソリンスタンドを再開させ、町民の利便性と生活の安全を図るため、普通財産を無償で貸付けするもの

- 1 貸付財産
 - 土地 宅地520.67平方メートル
 - 建物 鉄筋コンクリート造1階建 1棟
 - 付属施設 ガソリンスタンド設備等一式
 - 2 貸付期間 平成22年8月6日から平成27年8月5日まで
 - 3 貸付けの相手方 共和自動車工業株式会社
- 賛成8反対1で可決

スキー場用圧雪車の購入

●提案理由

スキー場のゲレンデを効率よく整備し、来場者の安全と安心を図ると共に、スキー場経営の安定を図るため

- 1 取得物件 圧雪車 1台
 - 2 取得目的 スキー場ゲレンデ整備のため
 - 3 取得価格 3286万5000円
 - 4 取得の相手方 英和株式会社 仙台営業所
- 全員賛成で可決

第4回臨時会

初議会 新議会体制始まる

9月30日、ダブル選挙後初となる議会を開き、議長、副議長、その他の委員を選出しました。また、町長等の給与をカットする条例1件は原案のおり可決されました。

議長の選出

●議長1名を選挙
投票1位の村上満議員が当選

副議長の選出

●副議長1名を選挙
投票1位の高橋茂美議員が当選

監査委員の任命

●提案理由
議会議員のうちから選任する委員が欠員となつたため、その後任に森雄一氏を選任しようとするもの
全員賛成で同意

町長等の給与の特例に関する条例の改正

●提案理由
町長等の給与の特例期間を延長するため
全員賛成で可決

議員の構成

- ※(カッコ)は当選回数
- ①今野三喜男議員(初) 総務文教 副委員長
 - ②菅原研治議員(2) 産業建設 副委員長
 - ③梅津政志議員(2) 総務文教 委員
 - ④森雄一議員(2) 総務文教 委員

- 議会運営 委員
- 監査委員
- ⑤吉野一夫議員(2) 産業建設 委員長
- ⑥武藏重幸議員(4) 総務文教 委員長
- ⑦小林喜一郎議員(5) 産業建設 委員
- ⑧山村文吾議員(11) 産業建設 委員
- ⑨高橋茂美議員(4) 副議長
- ⑩村上満議員(9) 議長

- ⑪山形県小国町では、森林組合が中心となってチップ燃料に加工するよう頑張っている。
- ⑫山形県小国町では、森林組合が中心となってチップ燃料に加工するよう頑張っている。

議員役職一覧表

氏名	役職
村上 満	議長
高橋 茂美	副議長
武藏 重幸	総務文教常任委員会委員長
吉野 一夫	産業建設常任委員会委員長
小林喜一郎	議会運営委員会委員長
梅津 政志	広報特別委員会委員長
菅原 研治	仙南地域広域行政事務組合議会議員
武藏 重幸	刈田病院議会議員・後期高齢者医療広域連合議会議員
森 雄一	監査委員

問 ナラ枯れ病はどのように対処するのか

答 112本の被害木を処理している



武藏 重幸 議員

森林被害で有名な松くい虫被害への対応は、伐倒燻蒸処理を継続的に取り組んでいることで、被害が小さく、大変よい結果が出ている。しかし、ナラ枯れ病については、被害が拡大する一方である。町では、民有林の伐採、燻蒸処理には大いに努力しているが、国有林ではその対策が一切見えていない。

ナラ枯れ病は、カシノナガキクイムシ、体長わずか5ミリの昆虫が、ナラタケ菌の共生によって発生する伝染病である。

最小の経費で、最大の効果を上げることが行政の基本であるならば、このナラ枯れ病を食い止めるために近隣市町村の協力、国有林管理署の連携が何よりも大切である。被害を受けている者同士が一体となって、この問題に対処すべきであるが、町はどのように対処するのか。

ナラ枯れ病は、122本が確認されている。今年度は森林病害虫防除事業として、112本の被害木の処理を実施した。

しかしながら、8月に入り数本のナラ枯れ被害木が確認されており、これから9月にかけて発生が拡大が予想されることから、再び伐倒燻蒸処理などの被害木の処理事業を実施し、紅葉の時期までに終了する計画となっている。

また、ナラ枯れ被害が多い、置賜森林管理署では、試験的におとり林を設け、そこにフェロモン剤を注入しおびき寄せ退治する方法。さらに原木を一定の場所に多く積んでおいて、そこに産卵するようフェロモン剤を置いて処理する勉強をしている。

山の奥まで行き、てっぺんにあるナラ枯れの木を処理することは、大変多くの費用がかかる。現在のナラの木1本の値段はいくらであることも費用対効果として見ることも大事であるが町長の考えを聞きたい。

費用対効果はそのとおりであると受けとめている。森林の有効活用を図るためには、森林環境税の創設が必要であり、松枯れ、ナラ枯れ、あるいは森林環境整備に対する今後の取り組みについて提言している。

それから、町では、112本の伐倒処理がすべて終了しているが、400本弱を残している予算の中で処理するよう進めている。

仙台営林署内のナラ枯れ防除事業については、処理本数が44本のうち町内が30本で、伐倒燻蒸、薬剤処理を実施している。

松くい虫、ナラ枯れの虫は昔からいる虫で、昔炭焼きをやっていた当時は、国有林の中で区分けしながら進めてきたこともあって、山の荒れは、今のよう環境と違う状況であり、ナラ枯れの被害は少なかったと聞いている。しかし、光さえない山の木の根っこまで入らないほど山が荒れている。これは、山を手入れしても採算がとれない、手入れする費用が大変窮屈していることが要因で、森林環境税

の創設についても、国、県、市町村が連携プレーをとる結論となっていることも報告したい。

高島町、上山市とのような話し合いをしているのか。森林を利用するのは、高齢化して大変だという話しを出されたが、森林組合に林業指導の補助金200万を支出している。そういう観点から、山の手入れの仕方、簡易な林道づくり、楽な搬出方法、そういっただけでも入れるような山づくりの意思があるのか聞きたい。

現在、高島町、上山市との連携プレーはない。山にかかわる林道整備も間伐も全て予算が伴う。森林環境税の創設のかわりであり、きちんと手当てできる金があれば何も手をつけることができるので、強く森林環境税の創設を求めている。